

第 29 回島根県国保地域医療学会主幹報告

大谷 順

要 旨：2021 年(令和 3 年)10 月 30 日、第 29 回島根県国保地域医療学会が開催された。今回はコロナ禍での開催で、感染拡大防止の観点から完全オンライン開催で行われた。プログラムの最初は、国診協理事、岐阜県北西部地域医療センター副長、兼国保白鳥病院兼国保小那比診療所長である廣瀬英生氏が、前年に公表された調査報告書を基にした「コロナ禍と地域医療」の演題で講演を行った。続くシンポジウムは、「新型コロナウイルス感染症から考える～新しい日常と地域包括医療・ケア」をテーマに、5 題の発表があった。

キーワード：Web 会議システム；コロナ禍；地域包括医療・ケア

(雲南市立病院医学雑誌 2022；18(1)：印刷中)

第 29 回島根県国保地域医療学会
主催 島根県国民健康保険診療施設協議会
島根県国民健康保険団体連合会

2021 年(令和 3 年)10 月 30 日 (土)
松江市 ホテル白鳥

2021 年(令和 3 年)10 月 30 日、第 29 回島根県国保地域医療学会が開催された。今回はコロナ禍での開催で、感染拡大防止の観点から Web 会議システム「Zoom」を用いて松江市の島根県国保会館をホスト会場とし、完全オンライン開催で行われた。

開会挨拶、主催者、来賓挨拶の後、最初のプログラムである講演が行われた。

演者は国診協理事、岐阜県北西部地域医療センター副長、兼国保白鳥病院兼国保小那比診療所長である廣瀬英生氏で、演題名は「コロナ禍と地域医療」。国診協の新型コロナウイルス

感染対策特別委員会委員長でもある廣瀬氏からは、前年に公表された調査報告書を基に、新型コロナウイルス感染が国保直診、および地域包括ケアに与える影響、今後の展望が詳細なデータとともに示された。

続くシンポジウムは、「新型コロナウイルス感染症から考える～新しい日常と地域包括

医療・ケア」をテーマに、行政、医療の立場から 5 題の発表があり、新型コロナウイルス感染症へのそれぞれの立場での関わり方、問題点などが提示され、演者

間だけでなく、フロアからも活発なディスカッションが行われた。

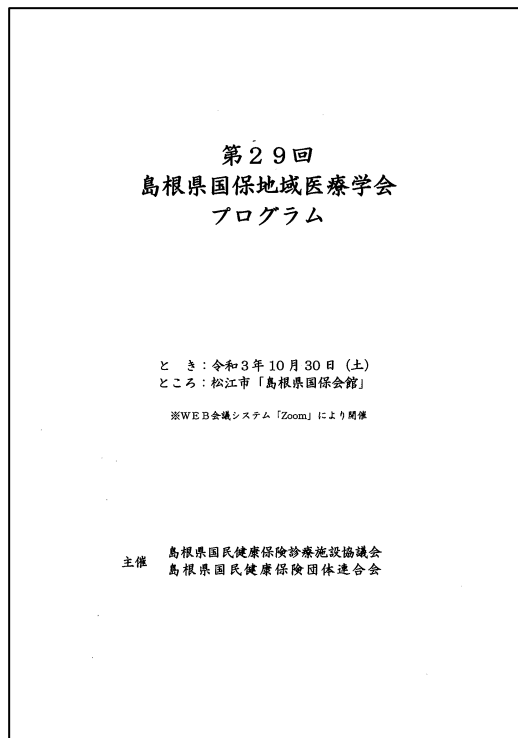


図 1：第 29 回島根県国保地域医療学会プログラム

雲南市立病院外科、第 29 回島根県国保地域医療学会長
連絡先：大谷順 雲南市立病院外科 [〒699-1221 雲南市大東町飯田 96-1]

E-mail：hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

(受付日：2021 年 11 月 30 日、受理日：2021 年 12 月 10 日、印刷日：2022 年●月●日)

参 考 文 献

- 1) 雲南市立病院編. 第 29 回島根県国保地域医療学会プログラム. 初版. 雲南市立病院総務課. 2021.
- 2) 廣瀬英生. コロナ禍と地域医療. 第 29 回島根県国保地域医療学会誌 2021;29:13-30
- 3) 茂富良太. シンポジウム 1 新型コロナウイルス感染症に対する地域中核病院としての取り組み～地域生活を支えるための 548 日間の闘い～. 第 29 回島根県国保地域医療学会誌 2021;29:33-39
- 4) 成相義樹. シンポジウム 2 新型コロナウイルス感

染症と歯科、口腔外科診療. 第 29 回島根県国保地域医療学会誌 2021;29:40-46

- 5) 山田顕士. シンポジウム 3 コロナ禍の地域医療～診所立場から～それは「隙をついて」やっきたー. 第 29 回島根県国保地域医療学会誌 2021;29:47-51
- 6) 柳樂真佐実. シンポジウム 4 隠岐圏域の新型コロナウイルス感染症対策～備えと実際～. 第 29 回島根県国保地域医療学会誌 2021;29:52-54
- 7) 永田英樹. シンポジウム 5 医療介護現場の抱える課題解決への支援について. 第 29 回島根県国保地域医療学会誌 2021;29:55-57

プログラム

第 29 回島根県国保地域医療学会開催要領

- 1 目的 国保診療施設等開設者及び勤務する医師、その他関係職員並びに市町村国保関係者、保健師等が地域包括医療・ケアの実践を探究するとともに、相互理解と研鑽を図ることを目的とする。
- 2 日時 令和 3 年 10 月 30 日(土) 13 時から 17 時まで
- 3 開催方法 WEB 会議システム「Zoom」により開催 (会場：島根県国保会館)
- 4 参加対象者
 - (1) 市町村長
 - (2) 県・市町村・国保組合関係者、介護保険関係者、その他関係職員
 - (3) 国保診療施設等の職員
 - (4) 保健・医療・福祉関係者
 - (5) 医学生・看護学生・医療系学生 等
- 5 主催 島根県国民健康保険診療施設協議会、島根県国民健康保険団体連合会
- 6 後援 島根県

日 程

時間	内容
12:30	Web 接続開始
13:00	開会 開会のことば 第 29 回島根県国保地域医療学会 学会長 大谷 順(雲南市病院事業管理者) 主催者挨拶 島根県国民健康保険団体連合会 理事長 山本浩章(益田市市長) 来賓挨拶 島根県健康福祉部 部長 小村浩二 氏
13:20	講演(90 分) 演題 「コロナ禍と地域医療」 講師 県北西部地域医療センター副長 兼国保白鳥病院兼国保小那比診療所長 廣瀬英生 氏 司会 第 29 回島根県国保地域医療学会 学会長 大谷 順
14:50	休憩(10 分)
15:00	シンポジウム(120 分) テーマ：「新型コロナウイルス感染症から考える～新しい日常と地域包括医療・ケア」 発言者 (5 名) 雲南市立病院感染管理認定看護師 茂富良太 氏 松江市立病院歯科口腔外部長 成相義樹 氏 松江市国民健康保険来待診療所所長 山田顕士 氏 島根県隠岐支庁隠岐保健所所長 柳樂真佐実 氏

吉賀町保健福祉課課長 永田英樹 氏
助言者
県北西部地域医療センター副長
兼国保白鳥病院兼国保小那比診療所長 廣瀬英生 氏
島根県健康福祉部医療統括監 谷口栄作 氏

司会
島根県国民健康保険診療施設協議会地域医療委員会 幹事 鈴木賢二
幹事 水澤清昭

17:00 閉会

講 演

「コロナ禍と地域医療」

講師 県北西部地域医療センター副センター長
兼国保白鳥病院副院長兼国保小那比診療所長(岐阜県) 廣瀬英生 氏
司会者 第29回島根県国保地域医療学会学会長 大谷 順(雲南市病院事業管理者)

講師紹介

県北西部地域医療センター副センター長兼国保白鳥病院副院長兼国保小那比診療所長(岐阜県)
廣瀬英生 先生(ひろせ ひでお)

【ご略歴】

平成13年3月 自治医科大学卒業
平成13年4月 岐阜県立多治見病院研修
平成15年4月 下呂市立小坂診療所勤務
平成17年4月 岐阜県立下呂温泉病院勤務
平成18年4月 高山市国民健康保険久々野診療所勤務
平成19年4月 郡上市国保和良病院(現 県北西部地域医療センター国保和良診療所)
令和2年4月 県北西部地域医療センター国保白鳥病院副院長兼副センター長
令和2年11月 国診協新型コロナウイルス感染対策特別委員会委員長

シンポジウム

テーマ

「新型コロナウイルス感染症から考える～新しい日常と地域包括医療・ケア～」

発言者

- 1 新型コロナウイルス感染症に対する地域中核病院としての取り組み
～地域生活を支えるための548日間の闘い～ ……雲南市立病院感染管理認定看護師 茂富良太
- 2 新型コロナウイルス感染症と歯科、口腔外科診療 ……松江市立病院歯科口腔外部長 成相義樹
- 3 コロナ禍の地域医療～診療所立場から～それは「隙をついて」やっきたー
……………松江市国民健康保険来待診療所所長 山田顕士
- 4 隠岐圏域の新型コロナウイルス感染症対策～備えと実際～
……………島根県隠岐支庁隠岐保健所所長 柳樂真佐実
- 5 医療介護現場の抱える課題解決への支援について ……吉賀町保健福祉課課長 永田英樹

助言者

県北西部地域医療センター副長兼国保白鳥病院兼国保小那比診療所長 廣瀬英生 氏
島根県健康福祉部医療統括監 谷口栄作 氏

司会者

島根県国民健康保険診療施設協議会 地域医療委員会
幹事 鈴木賢二(町立奥出雲病院院長)
幹事 水澤清昭(安来市病院事業管理者・安来市立病院院長)

シンポジウム発表要旨

シンポジウムシンポジウム 1

「新型コロナウイルス感染症に対する地域中核病院としての取り組み～地域生活を支えるための548日間の闘い～」

雲南市立病院感染管理認定看護師 茂富良太

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、雲南圏域の中核病院としての役割を有する当院でも、2020年4月から2021年9月末現在まで、計184名の患者の入院対応を行った。もともと4床の感染症病床を有していたが、県の要請を受け確保病床数を拡大、最大40床まで増床して対応した。

未知のウイルス感染症に対する手探りの対応から始まったが、どこの病棟で対応するのか、誰が担当するのか、設備環境はどのようにするのか、ストレスやメンタルケアはどうするのかなど様々な課題が山積していた。新型コロナウイルス感染症対策室を設置し、中心となって対応を指揮した経験から、実際に対応した際の問題点なども含めて当院での取り組みを報告する。これからの地域包括医療を考える際の一助になれば幸いである。

シンポジウムシンポジウム 2

「新型コロナウイルス感染症と歯科、口腔外科診療」

松江市立病院歯科口腔外部長 成相義樹

2019年12月に中国で確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は瞬く間に全世界に広がり、感染の最前線である医療現場はいまだ大きな影響を受けている。歯科・口腔外科は、原因ウイルスであるSARS-CoV-2を含む唾液や飛沫、エアロゾルに暴露されるリスクを伴いながら日常診療にあたる診療科の一つである。しかしながら、幸いなことに、現在まで歯科診療施設でのクラスターが耳目をあつめることはなかった。

今回は、COVID-19への歯科・口腔外科での対応について歯科関連学会から指針や松江市立病院歯科口腔外科での対応を供覧する。

また、COVID-19における口腔症状、一時期話題になった含嗽剤によるSARS-CoV-2の不活化など、COVID-19にまつわる口腔の話題について紹介したい。

シンポジウムシンポジウム 3

「コロナ禍の地域医療～診療所の立場から～ —それは「隙をついて」やっきたー」

松江市国民健康保険来待診療所所長 山田顕士

全国的に第4波を迎える頃(2021年4月)、当院でも新型コロナウイルス感染症例を経験した。症例は県外移動や周囲に新型コロナウイルス感染者もない高齢夫婦とうこもあり、感染が判明するまで時間を要した。

新型コロナは「隙をついてくる」こと想定し、あらゆる場面で新型コロナの存在疑うこと、発熱外来の徹底積極的な抗原検査施行等この症例から得た教訓補助、補助金を利用した院内環境整備、発熱外来の設置やワクチン接種等新たな業務が増えた無床診療所での日常、今後課題について発表する。

シンポジウムシンポジウム 4

「隠岐圏域の新型コロナウイルス感染症対策～備えと実際」

島根県隠岐支庁隠岐保健所所長 柳樂真佐実

隠岐圏域は、人口規模2万あまりと小さいものの、陸路でつながっていない離島である。新型コロナウイルス感染症のような新興感染症対策を行に当たっては、行政検査の検体搬送や、患者が入院するまでの搬送経路の確保など、離島ならではの課題があった。なかでも患者の搬送経路は重要であり、隠岐保健所として多様な搬送手段の確保に取り組んできた。

圏域内での初めて患者は2021年の4月に海士町で発生した。検体搬送や患者搬送では備えが生きた面があったが、人口2千人強の町で患者14人のアウトブレイクとなり、拡大防止策の難しさや、家庭内感染への対処など新たな課題にも直面した。

今回貴重な機会を頂いたので、離島のコロナ対策の準備と実際の現場での経験をお伝えするとともに、何かの参考にして頂ければ幸いである。

シンポジウムシンポジウム 5

「医療介護現場の抱える課題解決への支援について」
吉賀町保健福祉課課長 永田英樹

中山間地域に位置し高齢化率が高く地域医療や介護サービス提供体制が脆弱な吉賀町では、他の市町村と同様にコロナ禍においても必要なサービスを安定的に提供していくことが求められている。その期待に応えるため地域の医療機関や介護保険事業所は懸命に医療崩壊や施設内でのクラスター発生等を防止するため様々な対策を講じているが、収束が見通せない状況下において、長期的な負担増を強いられている。

この間、個々の課題解決を図るため医療機関等に対し町独自の支援を行い一定の効果を上げているが、今後の状況変化によっては新たな対策や求められることも予測される。今後の感染拡大等に対応し、地域の医療介護を守るため各現場の抱える課題解決に向けた町の支援について報告を行う。

シンポジウムシンポジウム 意見交換

A host report of the 29th Shimane Annual Congress of the Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association (JNCA), on Oct. 30, 2021, in Matsue

Jun Otani

Abstract: The 29th Shimane Annual Congress of JNCA was held on October 30, 2021. This time, due to the COVID-19 pandemic, the event was held in online meeting completely to prevent the spread of infection, The first program was a special lecture. The speaker was Dr. Hirose, a JNCA board member and vice director of Gifu Prefecture Northwest Regional Medical Center. He gave a lecture on COVID-19 and community medicine with the knowledge of his research. The next program was a symposium. Five speakers presented and discussed their knowledge regarding COVID-19 and community medicine.

Key words: Web meeting; pandemic of COVID-19; integrated community medicine and care system